

COOP Calendar

11月号

November 2017

Vol.144



「第38回宮城県生協組合員集会」
会員生協から約900人が参加しました

CONTENTS

<p>県連役員エッセイ……………1 佐藤由紀子理事「女性と貧困」</p> <p>宮城県生協連の活動……………2 ・宮城県生協連第48回総会（2017年度）第2回理事会報告 ・「平成29年度9.1宮城県総合防災訓練」参加報告 ・2017年度冬灯油暫定価格・2017年度夏灯油決定価格 ・「消費者のくらしと権利を守る第38回宮城県生協組合員集会」開催 ・「平成29年度東北地方液化石油ガス懇談会」参加報告 ・学習会「電力選びで地球の未来は変わる!!」開催 ・「2017年度宮城県生協連灯油モニター説明会」開催 ・東北経済産業局に対し、宮城県内の都市ガス・簡易ガス事業者の経過措置料金規制の追加解除事業者に関するパブリックコメントを提出しました。</p>	<p>復旧・復興のとりのくみ……………6 みやぎ生活協同組合 松島医療生活協同組合 みやぎ県南医療生活協同組合 宮城県高齢者生活協同組合</p> <p>会員生協だより……………8 みやぎ生活協同組合 生活協同組合あいこプみやぎ 松島医療生活協同組合 みやぎ県南医療生活協同組合 みやぎ仙南農業協同組合 宮城労働者共済生活協同組合</p> <p>協同のとりのくみ……………12</p>	<p>平和のとりのくみ……………13 環境のとりのくみ……………14 NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎの活動……………15 適格消費者団体NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動…16 宮城県ユニセフ協会の活動……………17 公益財団法人 MELONの活動……………18 行事予定……………19 新聞記事紹介……………20 資料……………28</p>
--	---	--

女性と貧困



宮城県生協連理事 佐藤 由紀子
(弁護士)

子どもの貧困、貧困の連鎖が社会問題としてクローズアップされてから、随分時間が経ちましたが、有効な対策はまだないように思われます。

大人1人+未成年の子の家庭、その多くはシングルマザーの家庭ですが、その相対的貧困率は、54.6% (H23年) と驚くほどの高さです。シングルマザーの就労率は81% (H20年) と高いにも関わらず、就労収入の平均は年181万円、パート・アルバイト等の非正規で働くシングルマザーの年収は125万円 (H23年) にすぎません。

正規で働く女性と男性の間にも、依然として賃金格差がありますが、とりわけ非正規女性の所得の低さが、男女の所得格差を大きくしています。このような男女の所得格差と、政治への

女性の進出の遅れのため、平成28年に発表された世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数では、日本は144ヶ国中111位と過去最低の水準でした。今のままのペースで進むとすれば、全世界でみて、男女が経済的に平等になるには170年かかると世界経済フォーラムは指摘しています。

また、高齢女性の貧困も大きな問題です。特に、65歳以上の女性の単独世帯の所得は、100万円未満が28%、100～150万円未満が22% (H23年) と150万円未満が半分を占めており、高齢女性の5人に1人が単独世帯 (H22年・H27年) です。現役世代の女性の所得の低さが、高齢期に反映されています。

男女の所得格差の解消、そして貧困問題の解決には、大きな政策の転換が必要です。170年

も待っていることはできません。

私たちが市民として、身近なところから何ができるかを考えることも大切だと思います。

フードバンク活動は、貧困問題への市民の支援として、大切な活動です。生協を中心として、フードバンク活動がもっと広がり、社会に点在するシングルマザーと子どもたち、高齢者に、笑顔と共に食べ物を届けることができるような社会が一日も早く実現できたらと思います。

もちろん、フードバンク活動の必要のない社会の実現が目標ですが。



宮城県生協連の活動

● 宮城県生協連第 48 回総会（2017 年度）第 2 回理事会報告

第 2 回理事会は、9 月 12 日（火）午後 1 時 30 分より、フォレスト仙台 5 階 501 会議室において開催され、理事 10 人、監事 2 人、顧問 2 人が参加しました。議長に宮本弘会長理事を選任し、議事に入りました。

【議決事項】

2017 年度冬灯油暫定価格決定の件について野崎和夫専務理事より提案があり、原案通り可決承認されました。

【報告事項】

1. 東日本大震災復旧復興に関する取り組みについて、出席した理事より報告があり、全員

異議なく了承しました。

- 第 48 回通常総会開催報告、宮城県協同組合こんわ会活動報告、平和・憲法 9 条関連報告、NPO 法人消費者市民ネットとうほく活動報告、平成 29 年度宮城県消費税軽減税率制度実施協議会報告、その他について、野崎和夫専務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。
- 2017 年度県連組合員集会、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ活動報告、消費税引き上げをやめさせる活動について、加藤房子常

務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

- 平成 29 年度みやぎ高齢者元気プラン推進委員会報告、NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ活動報告について、渡辺淳子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

【文書報告事項】

行政・議会関連、各種委員推薦・後援依頼・広告協賛等について、文書により報告がありました。

● 「平成 29 年度 9.1 宮城県総合防災訓練」参加報告

9 月 2 日（土）名取市で開催の「平成 29 年度 9.1 宮城県総合防災訓練」に、宮城県生協連として、みやぎ生協機関運営部の 2 人が参加しました。

宮城県と宮城県生協連は「災害時の応急生活物資供給協定」を締結しております。実際の業務をみやぎ生協に委託している

ことから、みやぎ生協の職員が参加しました。今年も救援物資輸送訓練に参加し、指定場所まで共同購入のトラックで物資を輸送しました。

これからも社会的責任をしっかりと果たせるよう、自治体の防災訓練に積極的に参加していきます。（機関運営部課長 千葉徹）



千葉徹課長(左)と藤田孝課長(右)

配達期間:2017年9月25日(月)~2018年4月27日(金)

2017 年度冬灯油暫定価格

お任せ給油価格(税込)	1 ㍓ 76.0円	18 ㍓1缶 1,368円
個 缶 価 格(税込)	1 ㍓ 77.0円	18 ㍓1缶 1,386円

※暫定価格は、灯油をめぐる大きな環境変化がある場合、期間中に修正することがあります。

配達期間:2017年5月1日(月)
~9月22日(金)

2017 年度夏灯油決定価格

お任せ給油価格(税込)	1 ㍓78.0円
	18 ㍓1缶1,404円

※1㍓あたり4円の割戻しをします。

宮城県生協連の活動

●「消費者のくらしと権利を守る第38回宮城県生協組合員集会」開催

9月26日(火)東京エレクトロンホール宮城大ホールにおいて、「消費者のくらしと権利を守る第38回宮城県生協組合員集会」が開催され、宮城県生協連加盟単協から924人が集まりました。

司会は、東北大学生協同組合学生委員会副学生委員長の宮本毅裕さんと、みやぎ生活協同組合地域代表理事の松木弥恵さんが行いました。

宮本弘会長理事から主催者挨拶があり、ご来賓として公明党宮城県本部副代表で仙台市議会副議長の菊地昭一様、民進党宮城県総支部連合会幹事長で仙台市議会議員の岡本あき子様、日本共産党宮城県委員会から仙台市議会議員の舩山由美様、社会民主党宮城県連合会幹事長で仙台市議団代表の辻隆一様からご挨拶いただきました。自由民主党宮城県支部連合会会長で参議院議員の愛知治郎様よりご挨拶の予定でしたが、国会の関係でご欠席となりメッセージを紹介しました。

続いて、宮城県生協連会員生協の活動について、生活協同組合あいコープみやぎ理事の原子良恵さんから紹介がありました。

次に、映画「バレンタイン一揆」の上映がありました。映画上映は、組合員集会では初めて



宮本弘会長理事の主催者挨拶

の企画でした。経済のグローバル化、サービスの多様化、規制改革、少子化、高齢化などにより、「貧困問題」「人権問題」「気候変動」など消費者を取り巻く環境は大きく変化しています。持続可能な社会経済のためには、消費者・生活者は、人と社会、地球環境のことを考慮して作られたモノを購入する、あるいは消費するという「エシカル消費」を行うなど、自ら選択する力を身に付けることが求められています。そのようなことから、実行委員会で検討した結果、世界の子どもの児童労働から守るために活動する認定NPO法人ACE制作の映画を上映することにしました。

ストーリーは、カカオ生産地ガーナの児童労働問題に直面し、悩み、考え、行動した日本の女の子たちの奮闘記です。「バレンタインデーにはフェアトレードでつくられた、ほんとうに愛のあるチョコレートを選んでほし



会員生協の活動紹介の様子



実行委員長の音頭でシュプレヒコール

い…」そんな思いから愛のあるチョコレートを広める活動が紹介され、映画に登場する女の子たちの様子に、笑いあり、涙ありで、参加者から拍手も起こりました。

その後、宮城県高齢者生活協同組合の半澤晃さんから、集会決議(後掲)が提案され、満場の拍手で採択されました。

実行委員長でみやぎ生活協同組合地域代表理事の石川雅子さんの音頭で、シュプレヒコールを行いました。

集会の後、秋晴れの中、虹のうちわを掲げて仙都会館まで、参加者全員でアピール行進しました。

宮城県生協連の活動

●「平成 29 年度東北地方液化石油ガス懇談会」参加報告

10月2日(月)TKP仙台カンファレンスセンターにおいて、「平成 29 年度東北地方液化石油ガス懇談会」が開催されました。宮城県生協連から加藤房子常務理事が、消費者委員として参加しました。

東北経済産業局資源エネルギー環境部の瀧川利美部長からの開会挨拶後、資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課の目黒浩課長補佐が「LP ガスが消費者から選択されるエネルギーとなるために～LP ガス料金の透明化に向けた液石法省令等の改正、取引適正化ガイドラインの制定～」について説明しました。

次に、関東東北産業保安監督部東北支部保安課の菅原達也課長補佐から「管内の液化石油ガス一般消費者等事故」についての報告があり、自治体からの報

告として、宮城県、山形県、福島県から消費者からの相談・対応事例の内容、宮城県と秋田県から取引適正化に関する検査状況・今後の方針についてありました。

その後、消費者委員と事業者委員との意見交換が行われました。消費者委員からは、価格の透明性や料金の公表、保安などに関する質問・意見が出されました。加藤常務理事は日本生協連の「わが家の電気・ガス料金しらべ」5月分報告書について説明し、『液石法省令等改正及び取引適正化ガイドライン』が施行されたがアンケート調査の結果では、まだまだ契約時の書面が手元にないとの回答数が56%(保管:43%)と昨年8月調査から変わっていない状況であること、LP ガス業界では各社の価格



懇談会の様子

の公表が十分ではなく、価格の高止まりが起きているのではないかと発言しました。

最後に、東北大学大学院経済学研究科の吉田浩教授からの総括がありました。

オブザーバーとして、日生協北海道・東北地連の井形貞祐事務局長、みやぎ生協エネルギー事業部の永沢秀行ガスセンター長、(株)コープエナジー東北の小川誠剛専務が参加しました。

参加者	主催者	資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課、一般社団法人エルピーガス振興センター
	消費者委員	青森県消費者協会(三澤英治常務理事)、岩手県地域婦人団体協議会(梶田佐知子事務局長)、宮城県消費者団体連絡協議会(玉手富美子副会長)、宮城県生協連(加藤房子常務理事)、秋田県地域婦人団体連絡協議会(小玉喜久子会長)、山形市消費者連合会(高橋和子会長)、福島県婦人団体連合会(石川美知理事)
	事業者委員	各県のLPガス協会/青森県(三浦秀人専務理事)、岩手県(菊池寛専務理事)、宮城県(渡邊正博会長)、秋田県(木村繁会長)、山形県(鈴木浩司会長)、福島県(小西正光会長)
	学識経験者	東北大学大学院経済学研究科 吉田浩教授
	自治体	宮城県総務部消防課(佐藤寿矢主事)、宮城県環境生活部消費生活・文化課(阿部信明課長補佐)、秋田県産業労働部資源エネルギー産業課(岸勉副主幹兼班長)、山形県環境エネルギー一部危機管理・くらし安心局くらし安全課(鈴木寛子主査)、福島県生活環境部消費生活課(佐藤淳子主査)
	経済産業省	資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 目黒浩課長補佐
	東北経産局	資源エネルギー環境部(瀧川利美部長他5人) 関東東北産業保安監督部東北支部保安課(菅原達也課長補佐)

宮城県生協連の活動

● 学習会「電力選びで地球の未来は変わる!!」開催

10月4日(火)フォレスト仙台2階第5・6会議室において、宮城県生協連と消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ(以下、消費者懇)の共催による学習会「電力選びで地球の未来は変わる!!」を開催しました。2017年度宮城県生協連灯油モニター、みやぎ生協・生協あいコープみやぎのメンバー、職員など129人が参加しました。

はじめに、宮城県生協連の野崎和夫専務理事(消費者懇座長)が開会挨拶を行いました。

その後、「電力選びで地球の未来は変わる!!」をテーマに講師の浦井彰さん(エネシフみやぎ代表、環境エネルギー政策研究所

研究員)からご講演いただきました。電力小売り自由化での電気事業の仕組み、電力小売会社切り替えに関するQ&A、家庭での電気料金の仕組み、電気料金の内訳などについて、とても分りやすくお話をされました。そして、電力小売会社の選択ポイントとして、電源構成などの情報の開示、契約内容の分りやすさ、電源の調達元、企業のポリシーなど、単純に料金が安いか高いかだけではないことを説明されました。

次に、生協あいコープみやぎ脱原発・エネルギーシフト委員会担当の鈴木真奈美理事からあいコープが取り扱うFIT電気率



講師のエネシフみやぎ代表浦井彰さん

87.2%(2017年度計画値)の「パルシステムでんき」について報告がありました。

続いて、みやぎ生協エネルギー事業部の木村孝統括から、これから進めるみやぎ生協の電力小売販売と、2017年度の灯油の状況報告、安心・便利な生協の配達灯油について説明がありました。

● 「2017年度宮城県生協連灯油モニター説明会」開催

10月4日(火)学習会終了後、引き続きフォレスト仙台2階第5・6会議室において、「2017年度宮城県生協連灯油モニター説明会」を開催しました。

今年度は、みやぎ生協と生協あいコープみやぎから62人の登録がありました。当日は48人の灯油モニターとみやぎ生協の

地域代表理事とエリアリーダーあわせて70人が参加しました。

はじめに、加藤房子常務理事が、灯油モニターが価格調査を行うことになった経緯、県内の配達灯油が適正な価格で販売されているかどうかを監視すること、市場で不当な価格操作が行なわれないように抑制する大切

な役割があることを説明しました。

その後、灯油モニターからの質問に対し、みやぎ生協エネルギー事業部の木村孝統括と、みやぎ生協生活文化部くらしの活動事務局の佐藤啓子さんが回答し、10月からの調査を確認しました。

東北経済産業局に対し、宮城県内の都市ガス・簡易ガス事業者の経過措置料金規制の追加解除事業者に関するパブリックコメントを提出しました。

今年4月から実施された家庭用の都市ガス・簡易ガスの自由化では、一定の要件を満たせば規制が解除される制度設計が行われました。追加の経過措置料金規制の解除実施について意見募集(10/4~11/2)あり、10月30日(月)東北経済産業局資源エネルギー環境部電力・ガス事業課宛に意見を提出しました。(後掲)

みやぎ生協

● 「女性ネットみやぎ 5 周年のつどい」

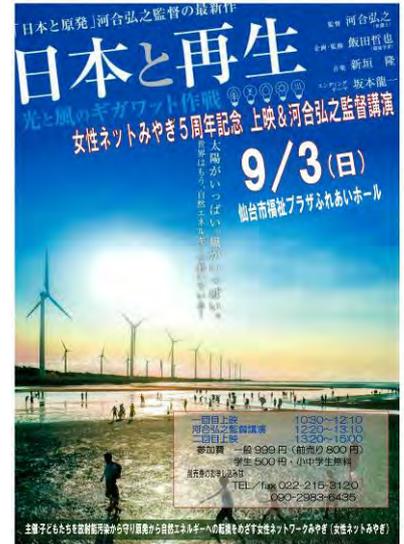
「子どもたちを放射能汚染から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」（略：女性ネットみやぎ）の「5周年のつどい」が、9月3日（日）仙台福祉プラザふれあいホールで260人の参加で開催されました。

当日は、ドキュメンタリー映画「日本と再生～光と風のギガワット作戦」の上映と、河合弘之監督（弁護士）の講演が行われました。この映画は、原発をなくしても自然エネルギーで地域も経済も再生できると確信す

る監督が、世界のエネルギー先進国7ヶ国を訪ね、その実情を描き出したもので、環境学者の飯田哲也さんが同道しています。講演では、この映画を製作するにいたった経緯や自然エネルギーへの政策転換について熱く語られました。

女川原発の再稼働が浮上している今、原発事故後のエネルギーのあり方や世界の実情を知り、今後の課題について考える会になりました。

（生活文化部 昆野加代子）



「5周年のつどい」のポスター



会場の様子

松島医療生協

● 集団移転先『野蒜ヶ丘団地』に90人の組合員

9月30日（土）10月1日（日）の2日間、新しくできた東松島市野蒜ヶ丘団地で、東日本大震災で行方不明になった組合員探しの訪問調査、及び災害公営住宅訪問調査をおこないました。

理事と職員の計46人21組で

訪問調査した件数は295軒です。訪問調査は「健康・暮らしむき」を伺いながら実施してきました。

これらの取り組みで90人の組合員が、野蒜ヶ丘団地に転居しているのがわかりました。

また、仮設住宅で行っていた

「茶話会・健康チェック」等を希望する方等もおり、今後の課題になりました。

（生協事務局 高橋康則）



訪問調査の様子



みやぎ県南医療生協

●「わいわい山元まつり」を山元支部まつりとして開催

復興支援として 2012 年から毎年、山元町花釜区で「やまもと花釜秋まつり」を開催してきました。今回は「わいわい山元まつり」と名称を変え、山元支部まつりとして、10月14日(土)花釜区交流センターの敷地内で開催しました。

近畿ブロックの医療生協の支援を受けながら、県南の支援ボランティアや山元支部の組合員、花釜区のみなさんと、準備からあと片付けまで行いました。

中央ステージでは、ヘルスコ

ープおおさかの歌や演奏、山元町のダンベル教室の皆さんによる発表、尼崎医療生協や神戸医療生協のクイズ、花釜音頭の披露、出店テントには、きづがわラーメン、神戸たこ焼き、健康チェック、体験コーナーなどに、150人ほどの参加者で賑わいました。雨模様の中、全国の医療生協から寄せられた名産品の抽選会もあり、最後まで楽しみました。

被災地に、山元支部が誕生して1年。3つの班が協力して、



山元町ダンベル教室の皆さんの体操

ようやく支部として活動ができるようになりました。地域の皆さんも一緒に元気になれるように、これからも支援を継続していきたいと思います。

(常務理事 児玉芳江)

宮城県高齢者生協

●「震災復興支援ツアー」

今回で7回目となる「震災復興支援ツアー」を38人の参加で、9月10日(日)・11日(月)に実施しました。

蒲生干潟に隣接する集会所「舟要の館」において、蒲生のまちづくりを考える会の笹谷由夫さんから、津波で亡くなった息子さん2人の鎮魂の場として自宅跡地に集会所を建てた経緯や、医師の水戸部秀利さんから、仙台港に建設された石炭火力発電所の問題点について、地球温暖化対策の流れに逆行することや、PM2.5の排出による健康破

壊の危険性などを学習しました。

津波で集落全戸が流されて校舎だけが残った荒浜小学校を見学し、その後、福島県南相馬市小高地区を視察しました。年数を経るごとに地域再生の見通しは厳しくなる状況にあることを強く実感しました。

2日目は、旧女川町立病院を見学の後、石巻住まいと復興を考える会連絡協議会代表委員の佐立昭さんから、行政への相談、交渉、要請を、仮設住宅の代表者で結成した連絡協議会が行っていることについてお聞きしま



「舟要の館」で話を聞く参加者

した。行政は要望を選別せず尊重してほしい、情報は隠さず住民に伝えるようにしてほしいという点を重視して活動してきたそうです。自然災害が非常に多い日本には、防災省が必要だと強調されました。

(専務理事 菅野俊明)

会員生協だより

みやぎ生協

● みやぎ生協 49 店舗目の錦町店オープン！

9月29日（金）朝9時、49店舗目の新店「みやぎ生協錦町店」がオープンしました。

店舗は仙台市中心部で定禅寺通りに面し、店舗周辺には事業所も多くあることから、すぐに食べられる商品やランチ関連商品を強めました。また、仕事帰りに短時間で買い物ができて、短時間で夕食の準備をしたいなどの声にも応えました。2階には、テナントとして人気の「佐世保バーガー」が入店し、Wi-Fi完備のイートインコーナーと、キッズスペースもあります。

お買い物だけではなく地域の憩いの場、休憩場所としてもご

利用いただけます。もちろん、安全・安心・おいしさを追求した商品と、買い物が楽しくなる心地よい空間を提供します。

環境にも配慮し、CO₂の排出量を減らすために、省エネ設備を導入しました。

9月25日（月）には開店に先立って、地元の「パリス錦町保育園」の園児たちを招いて、錦町店の花壇に植樹を行いました。子どもたちの喜びに満ちた将来を願うコデマリと、商売繁盛を願うツツジを植え、子どもたちとの交流を深めました。

お近くにおいでの際は、ぜひお立ち寄りください。



錦町店外観



花壇に植栽をする園児と役員

（機関運営部課長 稲葉勝美）

● 子育て世代を応援！みやぎの赤ちゃんへ贈ります「すくすくばこ」

毎年、宮城県では18,000人の出生があります。

「すくすくばこ」は大切なお子



サイズ
幅 約25cm
奥行 約27cm
高さ 約28cm

オリジナルアルバム



さんの誕生をお祝いし、健やかな成長を願うことを目的に、みやぎ生協と河北新報社が共同して、子育て世代を応援する新しい取り組みとして、10月1日よりスタートしました。宮城県内に在住の2017年4月1日以降に生まれた0歳児の赤ちゃんがいるご家庭からの応募者全員に、お祝いの気持ちを込めた「すくすくばこ」（無料）をお届けするものです。

「すくすくばこ」の中には、オリジナルアルバムや協賛企業

様からのプレゼントなどが入っており、お子さんの成長記録や思い出の品々を保管できる「思い出箱」としての役割も担います。

なお、この取り組みには包括連携協定を締結している宮城県の後援をいただいております。今後県子育て支援課とも連携して、子育て支援の取り組みをすすめます。

（生活文化部課長 松崎勝吾）

みやぎ生協

● 仙台市・みやぎ生協共催 [消費生活講座]

「おいしく食べて、災害に備える～ローリングストック術を身につけよう～」

9月28日(木) エル・パーク仙台セミナーホールにおいて、仙台市消費生活センターとの共催による消費生活講座を、地域代表理事の砂金亜紀子さんと薄木芳美さんが講師となって開催し、82人の参加で、ローリングストック(循環備蓄)を学びました。

ふだん食べているものをローリングストックすることで、災害時も食べ慣れたものを食べることができて安心につながることや、無駄のない備蓄ができる

ことをお話し、共同購入の利用登録やお店の「コープの日」を活用した計画的な備蓄のすすめなどもご紹介しました。また、乾燥ごぼうや切り干し大根を活用し火を使わない調理メニューを参加者に試食いただき、「実際に食べることでイメージがしやすかった」と好評でした。

会場には、栄養バランスを考えたローリングストックにおすすめの商品や、防災グッズなども展示しました。

参加者からは、「近くにスー



砂金理事と薄木理事の講演の様子

パーがあり、その時食べるものしか買っていなかった。目からウロコだった」「すぐに実践してみたい」などの声や活用方法の質問もあり、ローリングストックの理解につながりました。

(生活文化部 山田尚子)

生協あいコープみやぎ

● どうする？我が家の電気代～発電産地とつながろう～

8月26日(土) あいコープが「パルシステムでんき」の取り扱いを始めるキックオフイベントを、エル・パーク仙台スタジオホールにおいて開催し、約120人が参加しました。

始めに、環境学者の飯田哲也さんに「世界の、日本の、そして東北の自然エネルギー」をテーマに、ご講演いただきました。原発事故以来、自然エネルギーが普及しているように見えますが、世界のお話を聞くと、どれほど日本が時代遅れであるかが

よく解りました。

後半は、飯田さん・ひっぽ電力・パルシステム電力・あいコープの4者でトークセッションを行いました。飯田さんが所長を務める「環境エネルギー政策研究所」とパルシステムでんきの発電産地「ひっぽ電力」の出会いや、あいコープがひっぽ電力とどのように交流しどんな想いで電力事業を始めようとしているかを、会場の皆さんに伝えることができたと思います。

この講演会の内容を「おさら



トークセッションの様子

いカフェ」として、9月22日(金) 10月10日(火) 10月17日(火) 10月20日(金)に各地域で開催しました。「電気を選ぶ」ことは、原発に頼らない社会を創るために、個人でできる1つの手段だと共有できました。

(理事 鈴木真奈美)

会員生協だより

松島医療生協

●「健康まつり」～新しい絆をつくろう～

9月17日（日）台風接近で曇り空の中、今年も松島医療生協敷地内において「健康まつり」を実施し、組合員とその家族、約600人が参加しました。

開催時間を短縮したため、準備していた企画をカット・短縮したりしました。

8つの支部と7つの職場から、産直野菜、手作り品、焼きそば、クレープ、バザー等模擬店を出店し大賑わいでした。

また、日本医療福祉生協連がすすめる「すこしお生活」減塩



子どもたちもたくさん参加しました

料理教室や「笑いヨガ」など外部講師を招いての企画や、つばさ薬局松島店の「子ども薬剤師体験」など初めての企画に、子どもから高齢者まで笑顔が繋がったお祭りでした。

（生協事務局 高橋康則）



みやぎ県南医療生協

●「第19回健康まつり」

10月15日（日）雲ゆきがはっきりしない中でしたが、幸い雨に降られることもなく開会を迎えました。

オープニングは地元の船岡中学校吹奏楽部 50人の華やかな

演奏、そして毎年恒例の「伊具の里童楽娘鼓」による和太鼓、各支部の出し物、そして今年は地元で活躍している「ゴスペル」のグループを招いて、様々な舞台演出となりました。



地元の中学生の演奏でオープニング

支部の出店は食べ物、小物、展示、みやぎ保健企画からは「子ども薬剤師体験」コーナーと、セントラルキッチンの減塩コーナー、そしてバザーは開会前から行列をなしており、相変わらずの



バザーの人気は相変わらずです

人気ぶりでとても充実した中身でした。

この健康まつりも、組合員さんの力があって開催できています。前準備から会場設営など、たくさんの方の協力があり、1,500人を超える参加者で、無事に成功裏に終わることが出来ました。（組織部 佐久間智子）

会員生協だより

みやぎ仙南農協

● 青年部で婚活イベントを開催

みやぎ仙南農協青年部は、9月16日(土)白石市のグリーンパーク不忘において、婚活イベント「第7回のうかつ交流会」を開催しました。青年部員16人と一般女性11人が参加し、4組のカップルが誕生しました。

当日はJR大河原駅に集合し、その後はバスで移動。

開会式の後には、趣味や嗜好等を記入した「プロフィールカード」を見せ合いながら自己紹介をしました。

その後には、魚釣りやバーベキュー、ピザ作りで交流を深めました。カップリングで成立したカップルの名前が発表されると、歓声を上げて喜んでいました。

大平一光委員長は「新しい出会いのきっかけをつくることができてよかった。今年度はもう一度開催を予定しているので、

楽しんでもらえるものを考えていきたい」と話していました。

(営農企画課長 佐藤祥文)



バーベキューを楽しむ参加者

宮城労働者共済生協

● 『全労済創立60周年』～「たすけあう力」が未来を明るくする～

全労済は本年9月29日(金)に、創立60周年を迎えました。

創立当初に火災共済からスタートした事業は、その後「住まいの保障」「ひとの保障」「くるまの補償」と総合的な分野に拡充され、いまや20有余の共済を提供できるまでに成長・発展

を遂げることができました。

あらためて、今日の全労済を導いていただいた組合員・協力団体の皆さまに、心より感謝申し上げます。

私たちを取り巻く環境は、格差拡大、孤立化、大規模な自然災害への不安など、さらに厳し

さを増しています。働く人々が、たすけあうためにつくった全労済だからこそ、組合員の皆さまとともに、その原点を忘れることなく、人々の「働く今」「暮らしの今」



お祭りピットくん



共済ショップ仙台店
60周年記念ティースプレイ

を支えていきます。

私たち宮城労働者共済生協も、来年1月25日に創立60周年を迎えます。これまでの組合員の皆さまへの感謝とこれからの事業の発展を期して、キャンペーンや文化フェスティバルなど各種記念事業を行ってまいります。

(専務理事 蛭田美幸)



皆さまに支えられ、全労済は60周年を迎えました。

全労済の **住まいる共済** 火災共済・自然災害共済
こくみん共済 総合医療共済
せいのめい共済 マイカー共済
自賠責共済 団体生命共済
交通災害共済 新セット移行共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資費をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

保障のことなら全労済

● 宮城県協同組合こんわ会「2017年度委員総会および学習会」

宮城県協同組合こんわ会（宮城県農業協同組合中央会、宮城県生活協同組合連合会、宮城県漁業協同組合、宮城県森林組合連合会、日専連宮城県連合会の5団体で構成）では、8月31日（木）JAビル宮城6階特別会議室において、「2017年度委員総会及び学習会」を開催しました。構成団体の各会長をはじめ18人が参加しました。

委員総会では、2016年度活動報告及び収支決算、2017年度活動計画及び収支予算、2017年度会費、役員を選任について決定しました。

2017年度の活動では、協同組合間提携活動の展開、「協同組合」組織の発展に向けた取り組み、県産県消運動の推進、東日本大震災からの復興の加速化、地球環境を守る運動等に、積極的に取り組むことを確認しました。

震災から6年が経過し、各協同組合がそれぞれの事業・活動を通して、その役割を發揮しながら、震災の復旧・復興の加速化及び地域社会の絆づくりや地域産業の発展にむけて、協同し



挨拶する高橋正JA中央会会長

て取り組みをすすめることを確認しました。

協同組合こんわ会の会長に、高橋正県農協中央会会長、副会長に宮本弘県生協連会長理事、丹野一雄県漁協経営管理委員会会長、齋藤司県森林連会長、山口哲男日専連県連会長を選任しました。

委員総会后、協同組合の地域づくりの実践事例を学ぶ機会として、「協同のチカラで地域の困ったを解決したい！岩手県花巻市・高松第3行政区ふるさと地域協議会の地域づくり活動」をテーマに、高松第3行政区ふるさと地域協議会熊谷哲周事務局長を講師として、学習会を開催しました。

70世帯人口180人の花巻市第3行政区における地域づくりの



講師の熊谷哲周事務局長

活動について報告がありました。「農業、福祉、交流」をテーマにした学習会、福祉農園の運営、高齢者向けサロン活動、配食サービス、交通手段を持たない人の外出支援、特産品の販売、地元出身者への「ふるさと宅配便」を、花巻市、包括支援センター、社会福祉協議会、岩手県立大学、保育園、JA等との協働・連携により行っている状況とそのため工夫について話されました。地域づくりの実践事例を学ぶ機会となりました。



平和のとりくみ

生協は、「平和とよりよき生活のために」をスローガンに取り組みを行います。唯一の被爆国の国民として、核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法 9 条を含めた日本国憲法のよさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

宮城県生協連

● ヒバクシャ国際署名のとりくみ

北朝鮮の核実験に強く抗議する声明文を送付

9月13日(水)県生協連も参加しているヒバクシャ国際署名連絡会宮城(以下、連絡会)および宮城県原爆被害者の会両団体の会長名で、北朝鮮に対し核実験実施に対する抗議文を送付し、また内閣総理大臣および外

務大臣あてに、国は被爆国として対話による解決をはかることを求める意見書(後掲)を提出しました。同日、連絡会および宮城県原爆被害者の会の代表者が、県政記者会において会見を行いました。



記者会見の様子

「核兵器禁止条約への日本政府の参加を求める院内集会」参加報告

9月20日(水)日本原水爆被害者団体協議会(以下、日本被団協)主催による「日本政府へ条約の批准を求める院内集会」に、日本生協連および宮城県原爆被害者の会からの参加の呼びかけにこたえて、宮城県生協連から松本研一郎課長が参加しました。

黙とうの後、主催者を代表し岩佐幹三顧問から挨拶があり、

「日本政府は被爆の実相を受け止め、再び被爆者をつくらせないために核兵器のない世界の先頭に立ってほしい」と訴えました。その後、日本被団協の木戸季市事務局長がこれまでの取り組みについて報告しました。

自由民主党、公明党、民進党、日本共産党、自由党、社会民主党の各党から参加した議員の代表者が要請書を受け取りました。

最後に、日本被団協事務局次長の藤森俊希さんから、国連総会ホールで演説を行ったことについての報告がありました。



国会議員へ要請書提出の様子

ヒバクシャ国際署名街頭宣伝活動に参加

中央のヒバクシャ国際署名推進連絡会は、各国政府による署名が始まった920日から国連が定める核兵器の全面廃絶のための国際デー(9月26日)までの一週間をキャンペーン週間「PEACE WAVE 2017」(vol.2)として市民による行動強化週間

とすることを提案しました。

連絡会もこれに応えて、街頭署名活動を9月25日(月)12時から13時まで、仙台市青葉区一番町平和ビル前で行いました。連絡会の賛同団体から30人が参加し、200筆の署名が集まりました。



署名活動の様子

(県連担当課長 松本研一郎)

環境のとりくみ

生協の環境活動は、生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。組合員のライフスタイルの見直し、生産から流通・消費・廃棄までの製品のライフスタイルの各段階における環境負荷の低減等をすすめます。

生協あいコープみやぎ

● 環境学習会「自分の目で見る海の汚染」

9月9日（土）七ヶ浜国際村セミナー室において、東京農工大学の高田秀重教授を講師にお招きして、環境学習会「自分の目で見る海の汚染」を開催し、20人が参加しました。

学習会では、蛍光増白剤が分解されずに海の底に長い間残留していることや、マイクロプラスチック（直径5mm以下のプラスチック）の問題点について学びました。

その後、菖蒲田海岸に移動して、こぼれ落ちて浜に流れ着いたプラスチックの中間資材（レ

ジンペレット、米粒ほどの大きさ）を採取しながら、海岸のごみ拾いを行いました。ごみ袋は20分ぐらいで袋いっぱいになりました。お弁当の容器、ペットボトルや空き缶、レジ袋、養殖資材や原型をとどめていないものなど、ほとんどがプラスチック素材でした。これらのごみは、風に飛ばされ川に流れ、海にたどりついたものがほとんどです。形があるうちに拾わないと劣化してどんどん細かくなり、回収が不可能になってしまいます。何も手を打たなければ、海に流



菖蒲田海岸でレジンペレットを採取

入するプラスチック量は、20年後には現在の10倍になると予想されています。

プラスチックなしに生活をすることは難しいですが、使わなくて済むものは使わない。できることから始めませんか。

（理事 佐藤美恵）

みやぎの環境保全米県民会議

● 「平成29年産みやぎの環境保全米新米試食会」参加報告

新米を食しながら宮城県の環境保全米への取り組みの理解と普及拡大を目的とした「みやぎの環境保全米新米試食会」が、10月3日（火）JAビル宮城大会議室において開催され、85人が参加しました。県生協連から渡辺淳子常務理事が参加しました。

はじめに、主催者を代表して、みやぎの環境保全米県民会議の高橋正会長（JA宮城中央会会

長）より、今年度の作柄と今後の需給状況について報告がありました。みやぎの環境保全米は、農薬や化学肥料を慣行栽培の半分以下に減らしています。現在、栽培面積は日本一の実績を誇り、宮城県内の主食用水稲作付面積の約40%にまで拡大しています。今後、さらに環境保全米をPRしていくことを確認しました。

その後の新米試食会では、「ひとめぼれ・ササニシキ・つや姫」



試食会の様子

の新米が振る舞われた他、県産食材を使用したおかずもあり、新米と秋の恵みをいただきました。（常務理事 渡辺淳子）

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。私たちは知識と力を合わせ、良質な介護・福祉サービス提供と健全な事業運営のために、いっそうの研修にはげむとともに、情報を共有し、ネットワークをひろげます。もって子どもから大人まですべての人の人権が尊重されるまちづくりと、地域住民の福祉向上に資することをNPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)の目的としています。会員数は正会員 21 団体、個人正会員 18 人、団体賛助会員 2 団体、個人賛助会員 56 人です。(2017/4/1 現在)

● 2017 年度「第 3 回実務担当者会議拡大研修会」

介護・福祉ネットみやぎは、良質な介護サービスの提供と、健全な事業運営の実現を目指す非営利団体のネットワーク組織です。現在、団体正会員数は 21 団体となっており、ネットワークの運営や活動を検討する目的で「実務担当者会議」を定期的に開催し、研修会や学習会を企画しています。

第 3 回目となる研修会を 9 月 14 日(木)に開催し、調査員を含め 75 人が参加しました。

介護事業所において利用者へより良い支援を行うためには、利用者とのコミュニケーション及び職場内の協力・強調が必要不可欠となります。そのためには介護従事者は、まず自分自身を理解し、相手を理解した上で、人間関係を円滑にすることが求められます。

演習をとおして人間関係のルールと上手なコミュニケーション方法を学び、人間関係に自信が持てるようになることを目指した研修としました。

講師に東北コミュニケーション研究所所長の高橋利夫さんをお招きし、「人間関係とコミュニケーション～人間関係を良くす

るために～」と題し、ご講演いただきました。職場において職員に求められる能力と課題についての解説があり、能力には、①問題発見・解決能力②専門的な知識・技術③コミュニケーションの 3 点があること。近年、職場内ではコミュニケーション不足が目立つ傾向にあり、コミュニケーション力の必要性が求められていること。コミュニケーションを学ぶ必要性は職場内でのコミュニケーションを活性化し、良い人間関係を構築することやメンタルヘルスにも貢献するなど、適正で効率的な業務が遂行できるメリットがある。仕事はコミュニケーションによって成立しているといっても過言ではないことを、事例を交えてご説明いただきました。

そもそもコミュニケーションとは双方向的なものであり、相手に伝え、受けることで成り立つ意志の伝達という意味があり、コミュニケーションの 3 要素には、「言葉」「声の調子」「態度・表情・行動」などがあり、効果的で意義のあるコミュニケーションをするためには、これらの 3 つのメッセージ要素が



東北コミュニケーション研究所所長
高橋利夫さん

互いに支え合うことが大切であると、ご指摘がありました。

「コミュニケーションの具体的なルールとして、①あいさつは先手必勝で行う②笑顔で接する③聞き手にまわる④誠実な関心を寄せる⑤相手を否定しないがあげられ、適切なコミュニケーションを図ることは良い人間関係づくりに役割を發揮する」とお話されました。

演習は 2 人 1 組となり、与えられた課題に沿った体験型で行われました。

今回の研修会は、参加者一人ひとりが自分自身を見つめなおす良い機会となりました。

(事務局長 渡辺淳子)

適格消費者団体NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほくは、2017年4月25日に東北では初めて適格消費者団体として内閣総理大臣より認定を受けました。消費者の皆さんの「安全・安心な生活を送る権利」が守られる社会の実現に向けて活動していきます。

● 講演会「食品表示制度の現状と今後の課題」

10月13日（土）仙台弁護士会館4階ホールにおいて、講演会を開催しました。

池戸重信宮城大学名誉教授より「食品表示制度の現状と今後の課題」、消費者庁表示対策課食品表示対策室の阿部健治調査官より「健康食品の表示・広告の見方」についてご講演いただきました。消費生活相談員、消費者団体、行政関係者、法曹関係者、及び一般消費者など約30人の参加がありました。

池戸重信さんからは、「食品表示は、事業者と消費者を結ぶ信頼の絆であり、事業者は消費者

以上にルールを理解することが必要であり、法令の方向ではなく消費者の方向を注視することが大切である。消費者からも様々な意見が出ることによって今後の改善への繋がりにもなるので表示について注視して欲しい」とお話がありました。

次に、阿部健治さんからは、健康食品の違反事例が紹介されました。健康食品は、日頃の食事に対し補助するものであり、過度な期待をせずに、毎日バランスの良い食生活を送ることが大事とお話いただきました。



宮城大学池戸重信名誉教授



消費者庁表示対策課食品表示対策室
阿部健治調査官

● 第3回「2017年度ネットとうほく消費者被害事例ラボ」 ～傷害・疾病保険金請求のポイント～

2017年度「第3回消費者被害事例ラボ」を、9月14日（木）18時30分から仙台弁護士会館において開催しました。学識者、

弁護士、消費生活相談員等18人の参加がありました。

「傷害・疾病保険金請求のポイント」をテーマに、横田尚昌東北学院大学法学部教授（ネットとうほく検討委員）が報告しました。傷害保険について保険金が支払われるための条件（急激性、偶然性、外来性などといった法的要件）について、

当該条件が争われた裁判例を参考に解説がなされました。また、疾病保険における乳がんに関する90日不担保を定めた条項の適用について争われた事例が紹介されました。

次に、検討委員の男澤弁護士から、生命保険契約の無催告失効条項と消費者契約法10条についての判例について報告がありました。

（事務局 金野倫子）



東北学院大学横田尚昌教授（左）
検討委員の男澤拓弁護士（右）



宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。2011年4月1日より「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織 宮城県ユニセフ協会」と名称が変更になりました。県内唯一の団体としてユニセフの広報・啓発・募金・学習支援などを活発に展開しております。(設立:1995年 会員数:一般・学生 193人 団体7)

● いま、学校での「ユニセフ活動」が果たす役割

現在の学習指導要領は「生きる力」を育むという理念を掲げています。次代を担う子どもたちが生き抜くこれからの社会は、どのように変化するのでしょうか。そこで必要な「生きる力」とはどのようなものなのでしょうか。

「今の世界」を知ることは、これらを考えるためのひとつの方法です。そして、学校で取り組む「ユニセフ活動」には、次のような側面があります。

- 同じ年頃の世界の子どもたちの状況を知り、そこから自分たちが生きている世界の様子を知る。
- 世界の厳しい状況下の子どもたちと比べて、よりチャンスが多い日本での自分たちの暮らしが、どのような人々の努力や仕組みに支え

られているのか、気づく。

- 世界の子どもたちを支援するためにユニセフがどのように活動しているか、また、子どもたちの未来を守る持続可能な世界を築くための取り組みを知ることは、社会や世界の困難な課題に立ち向かう方法を知ることにつながる。
- 自分たちにできることを考え、具体的な行動を企画・実践することで、実際に変化を起こすために自ら動くことの大切さを学ぶことができる。
- 子どもたちによる行動が、学校内だけでなく、家族、周辺のコミュニティ、大人たちに影響を与えられることを知る。

ユニセフは、世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動する国連機関です。

世界のさまざまな問題や苦難のなかで、必死に生きている数多くの子どもたちを支えているのが「ユニセフ募金」です。

日本の子どもたちも戦後の15年間、ユニセフからの支援を受けました。日本におけるユニセフ募金は、そんな子どもたちが今度は自分たちができることをしようと、学校で呼びかけた「ユニセフ協力募金」や「10円募金」から始まったのです。以来、60年以上にわたって「ユニセフ学校募金活動」は受け継がれ、日本の子どもたちと世界の子どもたちをつなぎ続けています。

(事務局長 五十嵐栄子)



CUNICEF/NYHQ2006-2543/Pirozzi



名取市立増田小学校
6学年



美里町立不動堂小学校
4学年親子行事

ユニセフ出前授業の一例(小学校高学年対象) テーマ:『世界へ目を向けよう!』		③「ユニセフってなあに」	ユニセフ視聴覚教材を利用し、世界の子どもたちの現状とユニセフについて学ぶ
①長谷部誠選手とユニセフ	日本ユニセフ協会大使となった長谷部さんと東日本大震災支援でのエピソード	④体験学習	「水がめで水を運ぶ」「マラリアを予防する蚊帳に入る」「下痢をした時の経口補水療法」
②日本の小学生の一日	毎日の生活を振り返る→日本の当たり前が、世界のあたりまえではない	⑤展示	「地雷レプリカ」「ビタミンA」「プランピーナッツ」「ワクチンボックス」「毛布」「赤ちゃん体重計」

公益財団法人 MELONの活動

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(Miyagi Environment Life Out-reach Network) MELONは、みやぎ生協・JA 宮城中央会・県漁協・県森連・日専連の県内で活動する協同組合が中心となって設立され、1995年12月に財団法人化し、2012年2月より公益財団法人に移行しました。MELONは、緑と水と食を通して地球と地球環境保全の活動を行なっています。会員数は個人 544、法人 67 団体、任意団体 10 団体です。合計 621 です。(10/5 現在)

●「MELONフェスタ」開催 ～楽しい秋の一日となりました～

会員同士や会員と役員・事務局の交流を目的とする「第22回 MELON 会員と市民のつどい MELON フェスタ」を、9月23日(土)仙台市シルバーセンター7F 第一研修室において開催し、87人が参加しました。

理事の石垣政裕実行委員長の挨拶と MELON 第6期事業報告の後、オープニングはサンバグループ「サンバ de バテール」のみなさんの演奏。来場者の飛び入り参加もあり、聞くというよりも会場全員で演奏しているような一体感のある楽しい内容でした。



にぎわうブースエリアの様子



理事長賞を受賞した菊地ひろ子さん(左)
長谷川公一理事長(右)

学生サークル PR タイムでは、3つの大学サークルに加え、損保ジャパン CSO ラーニング制度により MELON でインターン活動をしている3人の大学生インターンも出演しました。映像や寸劇など若々しい発想で、それぞれ工夫をこらした活動発表が場を盛り上げました。

会場内では、MELON の会員企業有志と部会・プロジェクト、学生がブース出展し、3つの部門ごとに来場者が良いと思ったブースに投票してもらいました。そして、それぞれトップの票を得たブースと、各部門2位の内、



石垣政裕実行委員長の挨拶

最も得票の多かったブースの計4団体を表彰しました。

また、理事長が独断で表彰する理事長賞も発表され、大いに盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。

(事務局統括 小林幸司)

<ブース表彰>

部門	表彰者	賞品提供企業
会員企業部門	有限会社高橋建設	株式会社サイコー
学生部門	環境活動サークル FROGS (尚絅学院大学)	みやぎ生活協同組合
部会・プロジェクト部門	水部会	株式会社建築工房零
各部門の2位のうちで最も得票の多かったブース	環境サークルたんぽぽ (東北工業大学)	有限会社高橋建設

<理事長賞>

菊地 ひろ子 さん

賞品提供：
長谷川公一理事長

(MELON 評議員、気仙沼地域で長年にわたり活動中。
宮城県地球温暖化防止活動推進員、「青空エコカフェ」代表)

【出展会員企業&出演・出展学生サークル】

株式会社サイコー、有限会社高橋建設、株式会社パートナーズ、みやぎ生活協同組合環境活動サークル FROGS(尚絅学院大学)、環境サークル EVOL(東北福祉大学)環境サークルたんぽぽ(東北工業大学)、MELON インターン生

行事予定

平成 29 年度地方消費者フォーラム[東北ブロック]
つながりひろげて、おたがいさまの社会づくり
～エシカル消費で、わたしたちの世界は変わる！～

◇日時 2017年 11月 21日(火)
10:30～15:30

◇会場 ホテル福島グリーンパレス
(福島市太田町 13-53)

◇問合せ 宮城県生活協同組合連合会
TEL:022-276-5162・FAX:022-276-5160

【主催】 地方消費者フォーラム(東北ブロック)
実行委員会・消費者庁

10:30～ 開会
10:40～ パネルディスカッション
「エシカル消費で、
わたしたちの世界は変わる！」
13:10～ 報告
「福島発！責任ある消費と生産
～エシカル消費が解決する～」
13:30～ 分散会
「参加者全員が発言しよう！」
15:20～ 報告会
「こんなこと話したよ！」
閉会

学習会「新しい食品表示
ホントにわかりやすくなってる？」

◇日時 2017年 12月 7日(木)
10:30～12:00

◇場所 フォレスト仙台 2階第5・6会議室
(仙台市青葉区柏木 1-2-45)

◇参加費 無料

◇定員 100人 ※託児あり 1歳以上事前申込要

◇主催 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ
TEL:022-276-5162・FAX:022-276-5160

食品(商品)の包装に記載されている情報は
とても重要です。
どんな情報がつまっているか学習します。

食品の購入時に
何が気になる？

食品表示はどこを
みるの？

食品表示は何の
ためにあるの？



講師 森田 満樹さん
(一般社団法人フーコム事務局長)